



ゆのはな

すべての人が地域でしあわせに生活できる社会の実現

第22号
2022年10月
BRCだより

診療部 部長就任のご挨拶

診療部 部長 ^{ふじわら ひろのり} 藤原 寛功 (医師)

医師の藤原です。産業医科大学出身で専門は脳神経内科です。元々、別府市出身で2013年7月に当センターに入職しました。2018年3月にリハビリテーション科専門医を取得、この度、2022年4月から診療部部長(副病院長に任命されました。

当センターでは他職種連携によるチーム医療を推進していきます。チーム医療のあるべき姿として、「患者さん・ご家族とともに、医師をリーダーとする多職種で、目標達成に向けて最善を尽くす、リハビリテーションマインドを持ったチームを形成し、それぞれのメンバーが高い専門性を発揮するとともに、職種の垣根なく意見交換をおこない、互いに尊重し、補完しあうことで最良のリハビリテーションを提供していく」ということを

掲げております。

これを達成するために、今年度より、入院初日の流れ、カンファレンス実施体制、退院後のアフターフォロー体制の再構築などをおこなっており、より患者さん・ご家族を中心としたリハビリテーション・ケアを推進していきたいと考えております。

また、診療部部長(医局長)として、医師にとってもさらに働きやすい環境を整えていきたいと思います。もし、この「ゆのはな」を読まれた他病院の医師で、少しでもリハビリテーションに興味がある方がおられましたら、入職は大歓迎です。当センターまでいつでも連絡をお願いいたします。

今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

看護・介護部 部長就任のご挨拶

看護・介護部 部長 ^{ごとう めぐみ} 後藤 恵美 (看護師)

令和4年4月より、看護・介護部長に就任いたしました。早いもので半年が過ぎようとしております。

新型コロナウイルス感染症の第7波は、全国的に爆発的な感染者数となり、当法人においても感染予防の対応に追われていました。患者さん・ご家族、そして職員の皆様には、新型コロナウイルスを院内へ持ち込まない対応をお願いしており、日々、ご不便をおかけしております。

当法人理念である「すべての人が地域でしあわせに生活できる社会の実現」のもと、看護・介護部では、今年度新たに「患者さん一人ひとりの声を聴き人間性を尊重し、その人らしい生活を地域でしあわせに送れるよう、心のこもった看護・介

護を提供します。」を部のコンセプトとしました。

毎日、安心・安全に入院生活を送っていただけるように、環境を整えてまいります。また、目標をもって意欲的にリハビリテーションに取り組んでいただけるように、チーム医療(多職種協働)の一員である専門職として患者・家族の方々に信頼される看護・介護を提供してまいります。

そのためには、看護・介護職員が笑顔で働き続けられるよう業務改善をおこないながら、働きやすい職場環境作りをおこない、地域包括ケアシステムを構築するべく地域から求められる病院として、日々成長していきたいと考えております。今後ともご指導のほどよろしくお願い申し上げます。



祭 回 復 期 リ ハ 病 棟 夏 祭 祭

毎年恒例の「病棟夏祭り」を開催しました。
例年大人気のかき氷コーナーでは、イチゴ・メロン・ハワイアンブルーの3種類から選べ「久しぶりに食べた～」と笑顔で語る患者さんの姿に、かき氷機を回す職員も心がほっこり喜びを分かち合っていました。
夏の定番は、やっぱりかき氷ですね～♪



重心を下げて真剣勝負！

お神輿に、
院長も
の～りのり♪



かき氷は例年大好評です！

射的・魚釣り・輪投げコーナーも大いに盛り上がり、190点と高得点を出す強者もいらっしました。職員手作りのお神輿は、病棟から訓練室へと繰り出し、ワッショイワッショイという職員の掛け声と、患者さん一人ひとりの手拍子で大賑わい。
祭りのイベント食にも「美味しい」と舌鼓！
楽しい暑気払いとなりました。



関アジ関サバも釣れるかな！

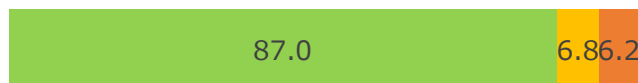
回復期リハビリテーション病棟2021年度実績



退院先割合 (%)

n=455

■在宅復帰 ■居住系施設 ■病院



疾患別割合 (%)

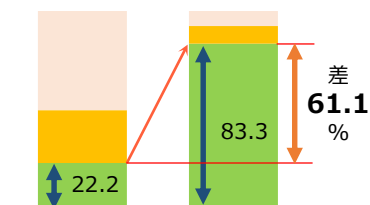
n=455

■脳血管領域 ■整形外科領域 ■廃用症候群 ■その他



脳血管歩行改善

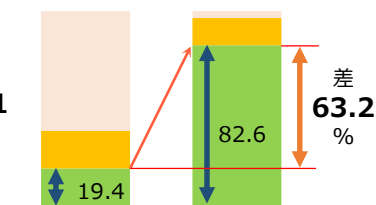
n=273



入院時 退院時
■介助 ■見守り ■自立

整形外科領域歩行改善

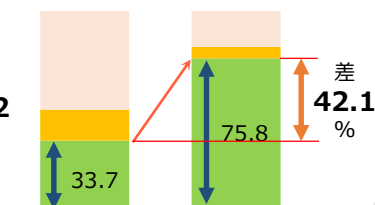
n=160



入院時 退院時
■介助 ■見守り ■自立

脳血管トイレ動作改善

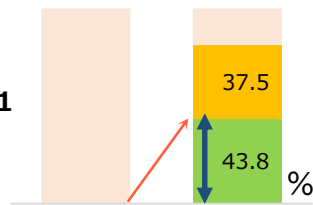
n=273



入院時 退院時
■介助 ■見守り ■自立

経管栄養改善

n=13



入院時 退院時
■全経管 ■併用 ■全経口

退院時在宅復帰された方が87.0%と前年度よりも増加しています。
疾患別分類では、入院された方のおよそ5割が脳血管領域で、4割が整形外科領域で、整形外科領域の患者さんに若干の増加傾向が見られました。

歩行改善度は、脳血管障害の方は61.1%、整形外科領域の方は63.2%の方が単独での歩行が可能となりました。前年度よりも向上しています。
脳血管障害のトイレ動作は42.1%の方が単独で可能となりました。

また入院時に3食を経管栄養を用いてた摂取されていた方13名のうち、退院時には7名(53.8%)の方が、3食をお口から食べることができるようになり、6名(46.2%)の方がお口からの食事と代替栄養併用と向上しました。



後藤久仁子さん(話し手)

脊髄損傷による四肢麻痺により当法人の回復期リハビリ病棟に入院、その後当法人社会福祉事業の就労支援を経て、現在は当法人<にじ>の職員として勤務中



吉良公男さん(聴き手)

脳梗塞による右手足の麻痺により、県外の回復期リハビリ病棟に入院、その後当法人の社会福祉事業の就労支援を経て、現在、当法人病院部門職員として勤務中

(吉良) 受傷直後の状況についてお聞かせください。

(後藤) 四肢麻痺で寝たきり状態で、自分の状態は確認のしようもなく、人から聞いた情報のみがすべてでした。医師からは「良くて車いすでの生活」と言われていましたが、情報を集める手段もなく、このまま動けないのではという不安と絶望の日々でした。

(吉良) 回復期リハビリ病棟に入院された時の様子をお聞かせください。

(後藤) ストレッチャーで入院し、手足が動かないためナースコールのボタンを押すことはできませんが、息を吹きかけて知らせるコール(ブレスコール機能)で看護師さんに連絡することができました。意識は鮮明で会話もできますので意思の疎通に困ることはありませんでしたが、食事もトイレも全介助の状況でした。

(吉良) 回復期リハ病棟での生活、スタッフへの要望などがありますか？

(後藤) 担当して下さった医師、看護師、ケアワーカー、PT、OT、ソーシャルワーカーの皆さんが家族のようにチームで携わってくださいました。PTさんが中心となって「後藤さん会議」を開いて日々の状態について話し合っていたと後で伺いました。とても頼りがいのある皆さんでした。

脚から徐々に回復し始め、起き上がる→車いす乗車→車いすを押してもらう→自分で足こぎ移動→歩行器へと大きく回復しました。

指は伸びたままOTさんが連日対応してくださり、指を伸ばす訓練では、痛みで涙が出たのを今でも覚えています。リハビリは段階的に回復したこともあり、同じ訓練を続けることなく次々とたくさん訓練をしていただきました。

ストレッチャーで入院した私は6カ月で歩けるようになっていました。チームで

取り組んでいた、一つひとつの訓練がすべて役に立ちました。

(吉良) 就労支援として<にじ>を紹介された経緯などをお聞かせください。

(後藤) 退院後もリハビリを受けたい気持ちがあり、ソーシャルワーカーさんから紹介を受け説明していただきました。見学に行き説明を受けましたが、自分の中で体が動くようになってきていたので、もっとパーソナルなリハビリをしたい、機能的にもっと上がるのではという思いなどから、他の病院も探していました。いろんな不安や迷いがある中で担当のPTさんから<にじ>の福澤OTを紹介していただきました。福澤OTからはパンフレットや資料を使って詳細な説明を受けることができました。今後の生活の自立のために機能回復とは別に代替手段を得たりとか、工夫をしたりとか等の訓練や知識が必要ということが明確となり、それができるところが<にじ>ということが分かり<にじ>に行く決心をしました。

(吉良) <にじ>でのリハビリや生活についてお聞かせください。

(後藤) 最初はいろんな訓練があって、入院する前の自分の生活とのギャップを感じ「こんなこともしないといけないのか？」という不安もありました。指先の細かな動きを必要とする作業では、周囲の方みたいに上手くいかずに落ち込むこともありました。動けるわりに上肢の動きや力の入りにくさから窓を拭くことも不十分で上手くいかなかったことを覚えています。

しかし、言われたことは何でもやるという気持ちで毎日臨んでいました。そんな中で「郵便実習」はとても良い印象として残っています。4階の事務室に足を運べることで、<にじ>の日常生活とは異なり、社会日常の生活を送る職員空間での作業に、実社会のスピード感や緊張感を感じ取ることができて、

社会復帰への意欲が高まりました。

(吉良) <にじ>での生活を振り返ってどの様な印象でしたか？

(後藤) 仲間がいることがとても心強く感じました。訓練後の余暇時間などに、障害を抱えた者同士だからこそ言い合える場がとても楽しくて気持ちを楽にすることができました。その時の仲間が、今でも心の支えになっています。

(吉良) 現在、日常生活の中で困っていることはありますか？

(後藤) やはり買い物ですね。買いたい物があっても、その荷物を持って運ぶことを考えると買いたいものが買えないことがあります。頼めるときは頼みますが、電球の交換とか瓶の蓋を開けるときのなど困るときがあります。

(吉良) 最後に、別府リハビリテーションセンターへの就職の話があった時の印象をお聞かせください。

(後藤) また働けるということが、とにかく嬉しい思いでした。社会復帰するということは、本当に大変で、まず自身の状況を職場の方に理解していただくことが必要ですし、理解されてもそのまま仕事を続ける中で、元通りにやって欲しいという気持ちも社会的にはあると思います。

自分のことを何でも分かっている、別府リハビリセンターの<にじ>に就職できるということは、そういう意味からとてもありがたい気持ちでした。

(吉良) そうですね。それは<にじ>を経験しセンターに就職できた私もまったく同じ気持ちです。

本日は、色々とお話を聴かせていただきありがとうございました。今後とも一緒にお仕事頑張っていきたいと思います。





飲み込む力を鍛える！ (あご持ち上げ体操の紹介)

飲み込む力を鍛えて誤嚥性肺炎を予防しよう！

<チェック>

このような症状はないですか？
自分のお口の状態を知ってみましょう

- ☐ 食後、ガラガラ声になる事がある
- ☐ 自分の唾液でせき込む事がある
- ☐ 大きな錠剤などの薬が飲みにくい
- ☐ 口の中に食べ物残りやすい
- ☐ 食事に時間がかかるようになった

のどの筋力を
鍛えて
飲み込む力を
UP！



飲み込む力を鍛える訓練を紹介！
<あご持ち上げ体操>

- ① 両手の親指をあごの下に当てる
- ② 親指で顔を持ち上げる
- ③ あごを下に傾けて押し返す
- ④ 押し合った状態で5秒間キープ

ひとつ以上チェックがある場合には？

<課題>

飲み込む力の強化
が必要です。

患者さん・ご家族サポート用冊子を順次発行しています



別府リハビリテーションセンターの回復期入院部門・外来部門の医療サービス向上委員会では、入院中または外来通院中の患者さんやそのご家族に向けたパンフレット(ハンドブック)を順次発行しています。

病気や症状について理解を深めていただくこと、退院後の日常生活に向けたアドバイスや注意点などを、委員会メンバーが中心となって、写真や絵を使って分かり易く作成しています。興味のある方は、担当の職員に気軽に声掛けください。



**高次脳機能障害支援
パンフレット**
2020年8月発行
高次脳機能障害とは？
どのような症状なのか。
対応に留意するポイント。
支援サービス機関
など、について詳しく解
説します。



**自宅でもできる
簡単エクササイズ！**
2021年2月発行
ご家庭や職場で、無理
をせず、長続きできる、
比較的簡単な方法で、
取り組める、全身のエク
ササイズについて解
説します。



**楽しく食べるを続ける
摂食・嚥下ハンドブック**
2020年9月発行
摂食・嚥下障害とは？
嚥下の仕組み、誤嚥と
は？誤嚥予防の方法、
嚥下体操など、楽しく
取り組める内容として
解説します。



**認知症ケア
パンフレット**
2022年10月発行
日本の認知症高齢者
の現状、軽度認知障害
とは？分類と特徴、早
期発見、支える家族へ
のサポート・支援サービ
スなど解説します。



社会福祉法人 農協共済 別府リハビリテーションセンター

日本医療機能評価機構認定病院 / 日本リハビリテーション医学会認定研修施設

製作：診療事業部門
医療サービス向上委員会

〒874-8611 大分県別府市鶴見1026-10
TEL:0977-67-1711 FAX:0977-67-1712
URL:https://brc.or.jp

